

しもしだみ獅子・神楽連

2025（令和7）年度 活動報告書

2025年4月1日から2026年3月31日まで

事業実施の方針：

下志段味地区に伝わる子ども獅子・お神楽の保存、伝承および振興を図るとともに、未来を担う世代へ地域文化をつなぎ、地域の絆を育むことを目的とした。この目的を達成するため、(1) 子ども獅子・お神楽の練習および公演、(2) 子ども獅子・お神楽に関する資料収集と整理、(3) 地域行事への参加および協力、(4) 会員相互の交流および親睦を行った。

今年度のまとめ

神楽連の立ち上げ初年度である今年度にはまず、組織の体制作りに力を注いだ。3月以降、月に1、2回程度の運営会議を行い、規約の作成、予算の編成、各種事業の検討、実施を行った。

青空子ども会から引き継いだ獅子巡行については着実に準備を進め、各種地域団体および青空子ども会役員 OB の協力も仰ぎながら、下志段味地区の全域（全7自治会）での巡行を計画することができた。また、神楽連スタッフ、大人ボランティアを含めて234名もの参加申込を得ることができた。秋祭り当日はあいにくの雨天であったため、獅子巡行は実施できなかったが、地域の多くの方から協力をいただき、秋祭りの活性化を図ることができた。秋祭り当日の夕方から開催した懇親会には、お神楽の演奏者、獅子巡行の申込者を中心に80名もの参加があり、様々な世代での交流を深めることができた。

お神楽の練習には、小学4年生から高校3年生まで、41名の参加者があった（笛33名・太鼓8名）。お神楽については、経験者である中学生の練習を5月中旬から開始し、8月以降は小学生、新規加入者も加わっての練習を開始した。練習時には、経験者が初心者に対して積極的に演奏を教える場面も多く見られ、今後の発展につながる成果を得ることができた。秋祭り当日には、練習参加者のほぼ全員が奉奏に参加することができた。また、下志段味地区の盆踊り、八幡神社提灯山、地区会館まつりなどのステージ企画にも子どもたちを中心に参加した。

その他、青空子ども会から引き継いだ秋祭り関連物品（法被・獅子頭等）の管理、お神楽で使用する楽器その他の管理・修繕などを行った。